

トクサ科 トクサ属

イヌドクサ (犬木賊)

Equisetum ramosissimum Desf.

自生環境

湿地、河川敷、あぜ など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

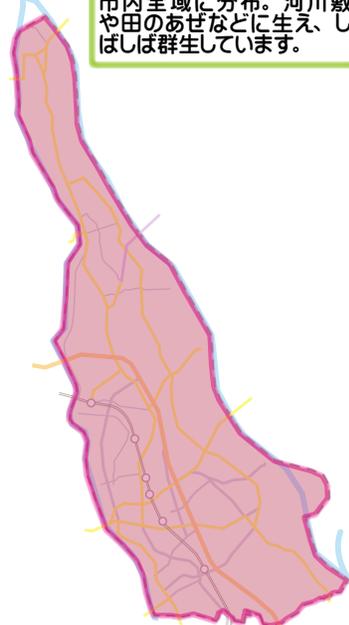
イヌスギナやスギナに比べると数は少ないものの、今のところ絶滅の心配はありません。とはいえ、地域に育つ野草として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

特徴

- ☆ 河川敷の乾燥した砂地に生えるほか、田のあぜなどの湿った場所にも見られます。自生環境からカワラドクサとも呼ばれます。常緑のシダ植物で地下茎を長くのばして、横に広がるようにして増えていきます。
- ☆ 分類上はスギナやトクサと同じ仲間で、雰囲気がよく似ています。ただスギナは横枝が車輪状に規則正しく出ることに対して、イヌドクサの横枝は不規則です。トクサは横枝をほとんど出しません。またイヌドクサの茎は直径3~5mmほどで、トクサに比べるとかなり細めです (トクサの茎は直径2.5~17mm)。
- ☆ 茎の先に長さ1~2cmほどの「つくしの頭」のようなものがつきます。これが胞子をつくる部分で、胞子囊穂と言います。シダ植物なので花は咲かず、種子ではなく、胞子で増えます。

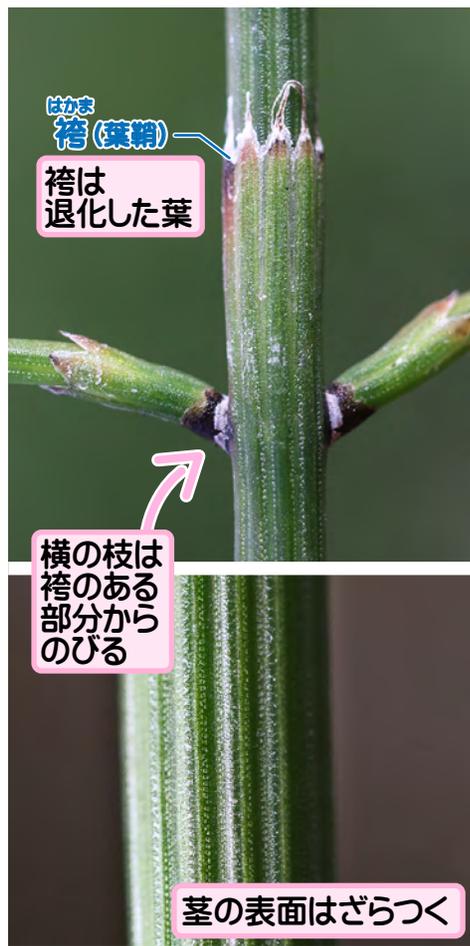
市内の分布状況

市内全域に分布。河川敷や田のあぜなどに生え、しばしば群生しています。



仲間のトクサは栽培される

北日本の山地に自生する仲間のトクサは、日当たりが悪くじめじめとしたような場所でも良く育つことから、日本庭園などによく植えられています。表面が硬くざらつくことから、古くは砥石や紙やすりの代わりとしても利用されました。名前のトクサは「砥草」から来ており、漢字は木賊の他に砥草という字も充てます。近年は北アメリカ原産でより大型になるオオトクサも植栽されます。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

